

"素粒子の相互作用" 研究会 (1)

開催: 1969年 12月 22日 23日 24日

Introduction

湯川秀樹

要約

1968年9月の Supplement 41号で、この
会での 議論を - 1つ にとめた。9月に行われた
会であったが、この会には、いくつかの 出席者
が参加した。この中で、 α (1) と α (2) の中心を
もつて - (2) のみ。

- 1) α (1) が \rightarrow α (2) 素粒子の相互作用の構造
- 2) α (1) が \rightarrow α (2) 素粒子の場 (ボソン - 1つの
非局所性、連続性、超領域性) の、とこれ
か) に対して、 α (1) の α (2) 素粒子
化でなく、 α (1) 素粒子に (hyperquantization)
を適用してみること
- 3) 因果性の意味の素粒子の可観性
semi-microcausality という α (1) の
場合 α (2) 素粒子、 α (1) 素
粒子領域の α (1) 素粒子 microcausality
が consistent に成り立つこと α (1)
と α (2) の、
 α (1) 素粒子 time-like 2つの向の4次元
距離 α (1) 素粒子 α (2) 素粒子
会に α (1) 素粒子 α (2) 素粒子 (距離 α (1))
2) space-like 2つの向の4次元
距離 α (1) 素粒子、 α (2) 素粒子
Markov-Takano
indefinite metric と α (1) 素粒子
波関数 α (1) 素粒子、 α (2) 素粒子 α (1) 素粒子
素粒子 α (1) 素粒子 α (2) 素粒子 α (1) 素粒子
素粒子 α (1) 素粒子 α (2) 素粒子 α (1) 素粒子

